

ひとはふくしん



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メールアド) honbu@hitoha-fukushi.com

津久井やまゆり園と私たち

いよいよ1月8日から、19人を殺害し、24人に重軽傷を負わせた津久井やまゆり園事件の裁判が始まりました。私たちはこの現場が支援施設であったことに戦慄しました。しかも犯人は元職員であり、「障がいの重い人は生きる価値がない」という信念を、勤務を通して持っていたことです。

当然、犯人は正当な場において裁きを受けなければなりません。しかし福祉の現場としては、それで一件落着くという訳にはいきません。

種別でいえば、津久井やまゆり園と共同ホームひとはは同じ生活支援施設です。再度共同ホームひとはの取り組みを考えてみたいと思います。

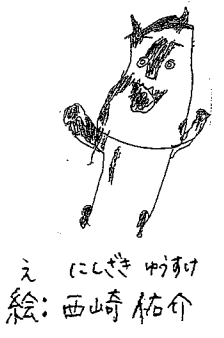
設立当初、「家もいいがホームもいい」をキャッチフレーズに

- 許可制ではなく届出制に
- 「行きます」「たいま」が当たり前
- プライバシーの保障は個室から
- 家族の往来は自由に
- 地域の一員であるためにも地域のなかに

等々を目的として取り組んできました。おかげで地域の主催する運動会やとんどなどでは大活躍です。

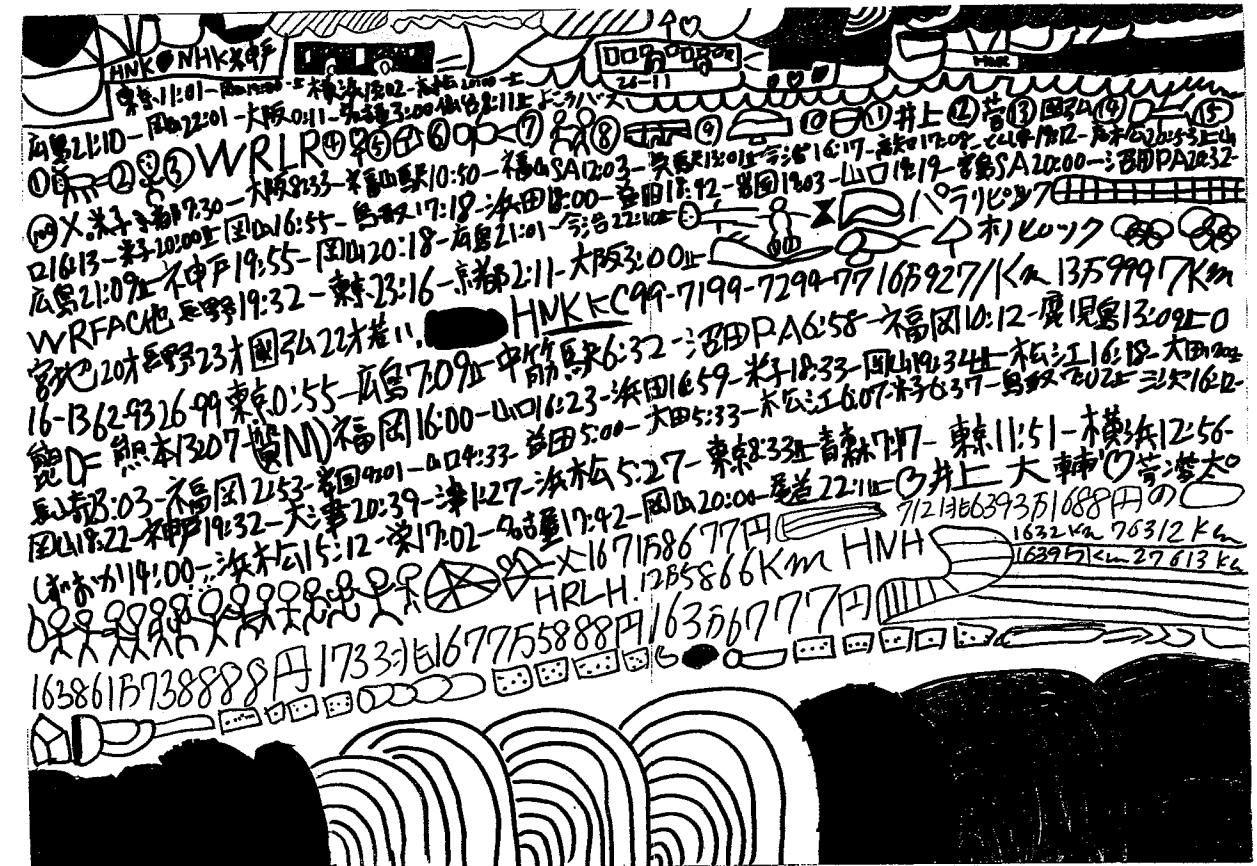
これからの裁判を注視しながら、福祉が「人権擁護の砦」となるよう取り組んでいきたいと思っております。ぜひともご支援ください。(理事長 寺尾文尚)

地域のとんどにやってきました。お田さん。エビを網の工でちぎっているとそばにあった砂糖はう油をひたすら食べる。スタッフと一歩雨に帰るが又やってきました。お田さんにきておるとお田さんお田さんといふお田さん。とんどはあつたかい。寺尾文尚



えににきやうけ 絵: 西山崎 佑介

アートな人たち「宮谷泰平さん」



「活動への思い」
月2回のアート活動を集約して

ササキ亭レシピコーナー

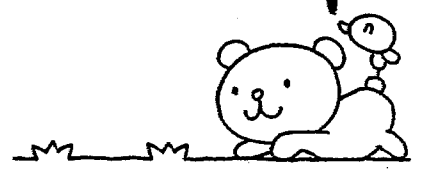
その1 生姜タルタルソース

- ① スライスした生姜をらっきょう酢に漬ける
- ② 十分漬かったら、生姜をみじん切りにする
- ③ お好みの分量のマヨネーズとあえる **完成**

魚のフライや、蒸し鶏、冷しゃぶ、温野菜などに

その2 白ねぎのたれ

- ① 白ねぎをみじん切りにして塩もみする
- ② 濃口しょうゆ、らっきょう酢、ごま油、塩こしょうを適量あえる **完成**



「玉ねぎとティッシュ」

ハンバーグの仕込みのため、今日の頼まれた数は15個。ひたすら玉ねぎのみじん切りにトシシシ...「あーしみる」涙がポロポロし始めると、いつものように横からすっさとティッシュを渡してくれるのは高森さんです。時には頭をなでくれる高森さんも隣で涙がポロリ。涙でくしゃくしゃの私の顔を見て優しい気持ち差し伸べてくれる彼女の温かい心と共に、ささき亭の食事は出来上がっています。

(ひとは工房 竹田ヨシ子)

「自信をもって」

私が出会った時に小学1年生だった男の子たちはもう5年生で、背もぐんぐん伸び、私より大きな靴を履いています。そして日直の仕事やお手伝いをする頼りになるお兄さんたちになりました。

3年位前に「日直ごっこ」と称して、号令や健康観察の夕前呼びの真似をしていたことを思い出します。実際の日直はやることも多いのですが、経験を重ねていくうちに顔つきや声のトーンも様になっていきました。

今の1年生たちの目に彼らはどう映っているのでしょうか。今はまだでもいつか憧れを持ってもらえたらいいな...と思います。

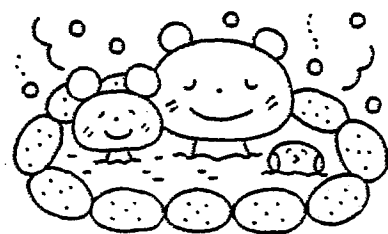
(ひとはほろこ 三村知美)

「相談」から「報告」へ

ある日、的場邸を言われると久々に微妙な雰囲気か漂っていた。ケンカにはなると感じた。住居人同士がソワソワしながらも平然を装っている。「落ちついて後には高木さんに話そう」と冗談で言っていたら本当に来たので...と、ケンカを誤魔化そうと妙な一体感が生まれた様子。数年前までスタッフに解決してもらおうとして

いた状況と思えば、住居人同士で解決しているので嬉しいやら悲しいやら...。「仲直りできたら何でもいいよ」と伝えると笑っていた。

(ひとは長屋 高木亮輔)



「窓」

もやいがかつ9月目的スペースあんに移転し冬を迎える頃、初めて増長さんが来訪。毎年、裏の広場にどんぐりを採りに来る彼が今年には来ない...黒い建物か怖いのだろうか?と話していた矢先でした。

玄関からではなく窓から。静かに掃き出し窓を開け、入ろうとする彼は超真顔。そこへ「土足ー!」と笑顔でかけよるスタッフの言葉にはほろり。

増長さんのように何気なく来てもらえ、そこに「だめ」ではない柔軟な言葉かけができる、そんな風通しの良い場所にしていきたいと思えた日でした。

(相談支援事業所もせい 矢口詠依子)

「挑戦」

初めてのことににはなかなかが気が乗らない竹森さん。市役所で封入作業をすることになった日のこと。誘うものの、質問されるだけで「行く」という言葉は聞けず...少々強引に「一緒に、行ってみましょ」と声をかけ、市役所へ。行く前はしどろしどろだった竹森さんですが、いざ作業が始まると、凄まじい勢いでどんどん進めています。「楽しいの、これ」とハイペース。帰り際には「たまにはこういうのもいいね」と一言。「また行きますか?」と尋ねると「行ってみようか」ととても前向きな返答でした。

経験したことのない作業には不安を感じますが、やってみると楽しいことたくさんあると今回のことを通じて改めて思いました。

また一緒に行きましょうね、竹森さん! (秋分センターあぶ 林ひとみ)

初の関東での年越しをした。この度の休暇。目的は、母の還暦祝い。兄は横浜、弟は結婚して東京に住んでいるので、向こうで集合しよう。ということに約1週間の滞在。都会が好き。母は、テレビで紹介されたスイーツや本場のもんじゃを食べてご満悦。私は私で母に付き合いながらも、念願の箱根馬車伝生観戦。宿となった兄の家では昭和感あふれるレトロな暮らしも体験し、充実の旅となった。(白井くみこ)

編集後記